



# 2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 福島県立あさか開成高等学校 】

1 実践テーマ	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
2 実施対象者 (学 年・人 数)	福島県立あさか開成高等学校 全学年・596名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 総合的な学習・探求の時間 )</p> <p>② 行事名 ( 公開文化祭、国際理解講座 など )</p> <p>③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目 標 (ねらい)	<p>●多様な文化や価値観を認め合える社会について考えていく。</p> <p>●留学生と共に活動することで、友好を深めお互いの理解を深めていく。</p> <p>●福島や日本文化のプレゼンテーションをとおして、地域や自分の文化への再確認をし、プライドを育む。</p> <p>●平和について考える機会とする。</p>
5 取組内容	<p>●留学生との交流</p> <p>①留学生と東京五輪音頭を踊る</p> <p>②留学生出身国の料理体験</p> <p>③ホストファミリーとして留学生の受け入れ</p> <p>④留学生を交えたクラス対抗綱引き大会</p> <p>⑤留学生と行く安積疏水ガイドツアー</p> <p>⑥留学生による日本語でのポスター作製</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

## 5 取組内容

### ●ふくしまプライド

- ①海外研修でのプレゼンテーション
- ②海外での福島アンケートとオリパラ普及活動
- ③福島の素材を用いた商品開発



### ●平和について考える

- ①演劇部による劇の上演「シャイロック〜ベニスの商人より」
- ②「市民が描いた原爆の絵」展示
- ③「ヒロシマからの手紙〜広島・被爆体験伝承者のお話〜」
- ④放送による「平和を祈る歌」特集
- ⑤韓国研修をとらして南北関係・日韓関係を考える
- ⑥全校生による折鶴作成



### ●総合的な学習・探求の時間での活動

- ①海洋プラスチックごみについて考える
  - ・講演会「ウミガミへの手紙」
  - ・エコバック作成
  - ・公開文化祭において、新聞紙で下足袋作成
  - ・一日体験入学において、牛乳パックを再利用した菜の配布
  - ・いわき海浜清掃、猪苗代湖清掃
- ②おもてなし講座
  - ・「おもてなし講座」筑波大学 江上いずみ氏
  - ・タイのおもてなし「ゲーセラック」ワークショップ

### ●その他の活動

- ①公開文化祭に向けて「ペットボトルキャップアート」作成
- ②ボッチャ体験
- ③「復興ふくしま推進会議」での事例発表
- ④「オリンピック・パラリンピックを体験！福島フェスティバル in 郡山」での東京五輪音頭披露



6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動の目的を明確にすることができた。</li> <li>・生徒の活動の場を増やすことができた。</li> <li>・オリンピック・パラリンピックの取り組みから SDG s への意識を向上させることができた。</li> <li>・留学生との交流の中に、オリパラ関係の素材を盛り込むことができた。</li> <li>・パラリンピック教育をとおして、多様性への気づきや他者への配慮を学ばせることができた。</li> </ul>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツの祭典という意味合いだけではなく、この大会の提言をとおして、現代社会の課題と未来の社会に目を向けさせると共に、各自が今できることを考えさせた。</li> <li>・大会終了後も継続して行えるような、持続可能な活動を目指した。</li> </ul>
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校の年間計画の立案上、事業の開始時期が 4 月からの方が望ましかった。</li> <li>②教育推進校同士の連携や情報交換ができる場がなかった。</li> <li>③パラリンピック選手を招待したかったが、学校の作りがバリアフリーでないため断念した。</li> <li>④学校全体の取り組みにさせるためには、他教員への理解や協力が必要である。</li> <li>⑤他の行事とうまく連携させて、事業を進めていく工夫が必要であった。また、推進校として行った活動をどのように継続させレガシーとして残していくかが今後の課題である。</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「総合的な学習の時間」の中で SDG s に関する内容の学習</li> <li>②平和について考える活動</li> <li>③留学生との交流と異文化理解</li> <li>④日本文化および地域の歴史と文化の再認識</li> <li>⑤海外研修での福島プレゼンテーション</li> <li>⑥ボランティア活動</li> <li>⑦障がい者スポーツの普及活動</li> <li>⑧実際の大会を見て本物に触れる活動</li> </ul>